

Q. 高齢の親が認知症のまま、体力が弱まっています。家族として、延命させたい気持ちがありますが、本人の意思を確認することはできません。このような場合、家族として、医療(医師等)側にどのように意思を伝えればよいのでしょうか？

A. 家族として大変難しい判断が迫られますね。元気なうちに、テレビの同様な場面を見ながら親は「私は管をつけてまで生きようとは思わない」というような話があれば、それに添った気持ちも大切にしなければなりません。また方法として、経管栄養などで延命を図ることもできますが、装置をつけたことで誤嚥や感染症にかかりやすくなるリスクもあり、かえってご本人の環境を苦しめることもあります。

このような場合、医療(医師等)側とよく相談することが大切です。相談のポイントは、

- ・延命とは「口から食べられなくなった、または必要量を摂れなくなった」状態から始まっているということを家族は認識しておくことです。
- ・反応(意識)の回復は見込めるのか、見込めないかを医師に確認すること。
- ・延命したい側の家族としての思いと、延命されるご本人の身体への負担を考慮すること。
- ・一旦、延命処置を行うと、医師や家族は延命の中止をすることはできないことを理解しておくこと。

【説明】 「口から食べられなくなった、または必要量を摂れなくなった」場合の考える順序

